

吃音 ・ クラタリング世界合同会議 in Japan 2018

募金趣意書

吃音 ・ クラタリング世界合同会議 in Japan 2018
大会委員会

吃音・クラタリング世界合同会議 in Japan 2018

吃音・クラタリング世界合同会議 in Japan 2018 は、国際クラタリング学会(ICA)、国際流暢性学会(IFA)、国際吃音者連盟(ISA)、日本吃音・流暢性障害学会、NPO 法人全国言友会連絡協議会の共催による世界初の合同学術会議です。大会テーマを『科学と吃音コミュニティ：ことばがつなぐ一つの世界』とし、世界中の吃音やクラタリングの研究者や臨床家だけでなく、吃音当事者やクラタリング当事者も一堂に会する世界初の試みとなっております。

本会議は、研究者主体の学会としての性格だけでなく、当事者団体を含むこれら3つの国際組織と2つの国内組織による新たな連携により、吃音やクラタリングの当事者、臨床家、研究者など、流暢性障害にかかわるあらゆる立場の参加者にとって新たな知見を得、ネットワークを構築する機会となることを目指しています。

言語障害に分類される吃音・クラタリングの研究・臨床は学際的なものであり、例年、医学、言語聴覚障害学、工学、教育学など多領域から研究者・臨床家の参加を得ております。基調講演、一般演題で扱われるテーマも、脳研究、遺伝子研究、臨床心理学的研究、知覚心理学的研究、音響学的研究、臨床家養成、当事者研究など広範囲に及ぶのが特徴です。今回は、これに加え、当事者自身の経験や、世界各国・地域のセルフヘルプグループの活動等を発表する機会を設ける予定であり、世界中の吃音・クラタリング当事者・研究者・臨床家にとって、多角的な視点による活発な議論と交流の場が展開されることが期待されます。

吃音・クラタリング世界合同会議 in Japan 2018 大会委員会

委員長（兼大会長）	川合 紀宗
委員長補佐	林田 真志
〃	宮本 昌子
事務局長	小林 宏明
副事務局長	斉藤 圭佑
監事	綾部 泰雄
	横井 秀明

会議の概要

1. 会議の名称とテーマ

- 1) 会議の名称
吃音・クラタリング世界合同会議 in Japan 2018
- 2) 会議のテーマ
『科学と吃音コミュニティ：ことばがつなぐ一つの世界』

2. 主催・併催機関などの名称

- 1) 主催
吃音・クラタリング世界合同会議 in Japan 2018 大会委員会
- 2) 併催
国際クラタリング学会 International Cluttering Association (ICA)
国際流暢性学会 International Fluency Association (IFA)
世界吃音者連盟 International Stuttering Association (ISA)
日本吃音・流暢性障害学会
特定非営利活動法人(NPO 法人)全国言友会連絡協議会
- 3) 協力
独立行政法人国際観光振興機構
- 4) 協賛
広島大学
メリーランド大学カレッジパーク校
広島観光コンベンションビューロー

3. 開催期間

2018年7月13日(金)～7月16日(月) (本会議4日間)

4. 開催場所

広島県広島市(広島国際会議場)
〒730-0811 広島県広島市中区中島町1-5
電話 082-242-7777
ファックス 082-242-8010

5. 主催責任者

吃音・クラタリング世界合同会議 in Japan 2018 大会委員会
委員長(兼大会長) 川合 紀宗(広島大学学術院(大学院教育学研究科・国際協力研究科)教授)
委員長補佐 林田 真志(広島大学学術院(大学院教育学研究科)准教授)
〃 宮本 昌子(筑波大学人間系准教授)

実施責任者名

委員長(兼大会長) 川合 紀宗(広島大学学術院(大学院教育学研究科・国際協力研究科)教授)

事務局長	小林 宏明 (金沢大学人間社会研究域 学校教育系 教授)
副事務局長	斉藤 圭佑 (NPO 法人全国言友会連絡協議会副理事長)
監事	綾部 泰雄 (NPO 法人全国言友会連絡協議会)
	横井 秀明 (NPO 法人きつおんサポートネットワーク)

事務局 〒920-1192 石川県金沢市角間町
 金沢大学人間社会研究域学校教育系 特別支援教育専修
 (小林 宏明研究室内)
 TEL : 076-264-5513 FAX : 076-264-5510
 Email : hiroshima2018jointcongress@gmail.com

6. 日本開催の経緯

吃音・クラタリング世界合同会議 in Japan 2018 は、国際クラタリング学会(ICA)、国際流暢性学会(IFA)、国際吃音者連盟(ISA)、日本吃音・流暢性障害学会、NPO 法人全国言友会連絡協議会の共催による初の合同会議で、吃音・クラタリング世界合同会議 in Japan 2018 大会委員会は、本会議の運営にあたるために設立された組織です。共催団体の1つである ICA は、2008 年に設立された国際学会で、言語障害の1つであるクラタリング(早口症)の研究推進を目的としている団体です。委員長補佐の宮本昌子が設立以来、当学会の国際委員会委員をつとめています。IFA は、2000 年に設立された国際学会で、同じく言語障害の1つである吃音の研究推進を目的としている団体です。本会議委員長の川合紀宗が、2013 年～2015 年まで当学会の常任理事・事務局長・研究委員会委員をつとめました。ISA は、1995 年に設立された国際的な吃音当事者団体で、吃音の理解啓発を目的としている団体です。現在、副事務局長の斉藤圭佑が当団体の理事を、委員長の川合紀宗が顧問委員をつとめています。また、国内の学会である日本吃音・流暢性障害学会においては、川合紀宗が副理事長、小林宏明が理事・事務局長、斉藤圭佑が理事をつとめ、NPO 法人全国言友会連絡協議会においては、斉藤圭佑が副理事長をつとめています。こうした経緯もあり、主催責任者の多くがこの分野では国際的に知られた存在でした。

従来、これら吃音・クラタリングに関連する5団体は、それぞれで独自に学術集会や大会を開催してまいりましたが、2015 年に、ICA と IFA が初めて共同開催をしたことを契機に、関連団体での共催という新たな開催様式の模索が始まりました。一方で、日本吃音・流暢性障害学会では、学会設立後、少しずつ吃音の理解の広まりを感じたものの、海外の研究者、臨床家、当事者とも連携しながら、さらに大規模な研究を行い、吃音研究、臨床方法の開発、臨床家の育成、吃音の啓発や理解推進を行う必要があると考えていました。そのような中、2015 年に、2018 年の IFA の次期国際会議の開催公募があり、日本吃音・流暢性障害学会理事会において、これに応募することが議決されました。日本以外に、南アフリカ、ペルーからの立候補があり、2015 年の IFA リスボン大会の際に、各国の広報プレゼンテーションが行われました。日本のプレゼンテーションは、本会議委員長が行いました。その後、会員による投票が行われ、日本(広島)での開催が決定しました。その後、日本吃音・流暢性障害学会では、研究者・臨床家・当事者とその家族による連携を謳っておりましたので、ICA、ISA、NPO 法人全国言友会連絡協議会に呼びかけ、吃音・クラタリング世界合同会議の開催が実現しました。

なお、本会議を構成する ICA による国際会議の過去3回の開催状況は、以下のとおりです。なお、2015 年は IFA と共同開催です。

開催年	開催地	参加国数	参加者数	日本人参加者
2007 年(第1回)	ラズログ(ブルガリア)	8	約 50 名	2 名
2014 年(第2回)	アイントホーフェン(オランダ)	7	約 50 名	2 名
2015 年(第3回)	リスボン(ポルトガル)	14	約 250 名	12 名

本会議を構成する IFA による国際会議の過去3回の開催状況は、以下のとおりです。なお、2015 年は ICA と共同開催です。

開催年	開催地	参加国数	参加者数	日本人参加者
2009 年(第6回)	リオデジャネイロ(ブラジル)	25	約 300 名	5 名

2012年（第7回）	トゥール（フランス）	22	約200名	8名
2015年（第8回）	リスボン（ポルトガル）	24	約250名	12名

本会議を構成するISAによる国際会議の過去3回の開催状況は、以下のとおりです。

開催年	開催地	参加国数	参加者数	日本人参加者
2010年（第9回）	ブエノスアイレス（アルゼンチン）	25	約400名	6名
2013年（第10回）	ルンテルン（オランダ）	23	約350名	4名
2016年（第11回）	アトランタ（アメリカ合衆国）	28	約900名	10名

本会議を構成する日本吃音・流暢性障害学会の過去3回の大会開催状況は、以下の通りです。

開催年	開催地	参加国数	参加者数	外国人参加者
2015年（第3回）	大阪市（大阪府）	1	約400名	0名
2016年（第4回）	所沢市（埼玉県）	2	約400名	1名
2017年（第5回）	岐阜市（岐阜県）	1	約400名	0名

本会議を構成するNPO法人全国言友会連絡協議会の過去3回の大会開催状況は、以下の通りです。

開催年	開催地	参加国数	参加者数	外国人参加者
2014年（第49回）	松山市（愛媛県）	1	約200名	0名
2015年（第50回）	伊奈町（埼玉県）	1	約200名	0名
2016年（第51回）	福岡市（福岡県）	1	約250名	0名

7. 日本開催の目的と意義

今回、日本で実施する世界初の吃音・クラタリングに関する合同会議は、実績のある国内外の組織による共同開催によるものであり、これら多様性のある複数の組織が吃音・クラタリングの体験や感覚、態度、認識などを当事者、研究者、臨床家が相互に探究し、効果的な連携が実現される、歴史的に画期的な取り組みとなります。吃音・クラタリングの当事者が安心でき、同じ悩みを持つ人たちと経験を共有すること、臨床家が自身のスキルを共有し、最新の知見を得ること、吃音・クラタリングと付き合う上で革新的で新しい手法を探している当事者が自身の経験やアイデアを共有すること、そして、研究者が世界中の著名な研究者が集うこの刺激的な環境の中で優れた研究を示すことができるような機会を提供したいと考えています。

8. 開催計画の概要

1) 会議日程

7月13日（金）	午前	開会式 基調講演 1 口頭発表 1
	午後	ポスター発表 1・展示 2 口頭発表 2～5
7月14日（土）	午前	基調講演 2 口頭発表 6
	午後	ポスター発表 2・展示 2 口頭発表 7～10
	夜	ガラ・ディナー
7月15日（日）	午前	シンポジウム 1 口頭発表 11
	午後	ポスター発表 3・展示 3 口頭発表 12～15
7月16日（月）	午前	シンポジウム 2 口頭発表 16

午後 ポスター発表 4・展示 4
ワークショップ 1～4
閉会式

2) 主要トピックス

基調講演

『吃音臨床の社会的背景と臨床的関係の重要性』

Bruce Wampold 氏 (ノルウェーモダム精神病理学センター研究所所長・ウィスコンシン大学マディソン校名誉教授)

『吃音のある青年・成人に対する集団 CBT アプローチの適用』

森 浩一氏 (国立障害者リハビリテーションセンター病院第三診療長・同センター学院長)

シンポジウム

『クラタリングの概念化に向けた3方面からのアプローチ (TPA-CC) 』

Florence Myers 氏 (アデルフィ大学教授)

Charley Adams 氏 (サウスカロライナ大学臨床助教授)

Susanne Cook 氏 (フェアファックス郡教育委員会言語療法士)

『吃音のある人の当事者研究 (仮) 』

Mitchell Trichon 氏 (ラ・サール大学助教授)

Annie Bradberry 氏 (世界吃音者連盟理事長)

3) 参加予定者

国内	200名
海外	200名
合計	400名

4) 参加予定国 25ヶ国・地域

日本、アメリカ、台湾、インド、シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、デンマーク、フランス、アイルランド、スウェーデン、イギリス、ドイツ、韓国、カナダ、イタリア、スペイン、メキシコ、パキスタン、フィンランド、ノルウェー、ロシア、中国、ブラジル

5) 会議使用言語

英語 (日本語⇄英語同時通訳含む)

9. 寄附金を必要とする理由

吃音・クラタリング世界合同会議 in Japan 2018 は、アジア地域で初めて開催される吃音やクラタリングに関する国際会議であり、わが国のみならず、アジア諸国の言語聴覚療法学、特別支援教育学、心理学、脳科学分野の活性化に大きく寄与するものであります。本会議は海外 200 名、国内 200 名、計 400 名の参加が予定されており、語学に熟達している研究者のみならず、吃音に関わる臨床家や当事者も多く参加し、最新の研究動向や臨床技術等を知り、世界各国の当事者同士が情報交換を行う貴重な機会であります。そのためには、同時・逐次の通訳は必須であり、また翻訳された資料等の準備も必要と考えます。海外の研究者・当事者からも日本でどのような研究・臨床がなされているかを知りたいという声も多く、そのためにも日本語を英語に翻訳するセッションも設ける予定であります。こうした経緯から、準備運営等に関する総経費は 28,724,330 円が見込まれています。これらの諸経費は、本来参加登録費等で充当すべきものであります。①これまでアメリカやヨーロッパで主に開催されてきた会議であり、来日すること自体に経済的負担を感じている参加予定者が多いこと、②国内の参加者のみならず、海外の研究者、臨床家、当事者に日本の研究・臨床・当事者団体での活動の状況をより詳しく知ってもらうために、本会議においては通訳が必要

になること、③研究費で参加登録費を賄える研究者だけでなく、吃音・クラタリング当事者や臨床家の参加も広く呼び掛ける必要があることから、極力参加登録料を低額に抑えたいとの事由により総額 28,724,330 円から、参加費等自己負担額 13,000,000 円、補助金等 3,500,000 円、主催団体による出資金 1,604,800 円、諸収入等 2,619,530 円を除く不足額、8,000,000 円（主として同時通訳費用に充当する予定です）を諸企業及び諸団体からのご援助に頼らざるを得ないのが現状です。従いまして、下記の費用を会議に協賛する関係企業等からの寄附金にて充当したいと存じます。

10. 収支予算（案）

単位：円

収支区分	金額
（収入）	
1. 自己負担金（参加登録費等）	14,604,800
2. 諸収入等（展示会等）	2,619,530
3. 補助金／助成金等	3,500,000
4. 寄附金等	8,000,000
収入合計	28,724,330
（支出）	
1. 会議準備費	2,974,685
2. 会議運営費	24,674,645
3. 展示会・企業セミナー等	275,000
4. 募金経費	650,000
5. 事後処理費	150,000
支出合計	28,724,330

11. 寄附金募集要項

（1）募金の名称

吃音・クラタリング世界合同会議 in Japan 2018 寄附金

（2）募金の目標額

8,000,000 円（総額 28,724,330 円の内）

（3）募金期間

2018 年（平成 30 年）1 月 19 日（金）～2018 年（平成 30 年）7 月 12 日（木）

（注：会議開催日前の銀行営業日まで）

（4）寄附金の使途

吃音・クラタリング世界合同会議 in Japan 2018 の準備並びに運営に関する費用に充当します。

（5）寄附金申込先

独立行政法人国際観光振興機構コンベンション誘致部交付金担当
160-0004 東京都新宿区四谷 4-1 細井ビル 4 階
電話：03-6691-4852

（6）寄附金振込方法

別紙のフローチャート通りとなります。
別紙申込書を国際観光振興機構にお送りください。

寄附金申込書を受領し確認次第、国際観光振興機構より寄附金申込受理書を送付いたします。寄附金申込書受理書を受領後、指定口座番号にお振込ください。

(7) 税法上の扱い

この寄附金は、特定公益増進法人である独立行政法人国際観光振興機構への寄附金として、税法上の一般寄附金とは別途に損金算入等の優遇措置が講ぜられます。